

学界消息

読史会 五月例会

五月一日(土)午後一時より  
於、京大葉友会館(以下同)

長者についての一考察

三浦圭一

六月例会 六月八日(土)午後一時より  
近世初期の畿内における新田村落

松尾 寿

戦国大名毛利氏について  
昭和三八年度春季大会

村田修三

六月十六日(日)午前九時半〜午後五時  
天平元年の変について

野田嶺志

「和魂洋才」的思惟講道の成立に  
ついての一考察

山崎 彰

第一次幣原外交  
散所の原型について

江口圭一  
黒田俊雄

永仁二年の東大寺大仏當燈料田記  
録について

熱田 公

山陽史論論評よりみた近代日本史学史  
の側面

酒井忠雄

元興寺極楽坊の楠経について(実物展示)

五来 重

仏教と齋忌習俗

柴田 実

〈特別講演〉  
勾玉よりみた上古の日本

梅原末治

東洋史大学院会

四月二十六日 於 東洋史研究室  
十六世紀太湖周辺に於ける官田制  
度の改革

森 正夫

五月二十四日 於 東洋史研究室  
(書評) 礪波護「中世貴族制の崩  
壊と辟召制」(『東洋史研究』二  
一ノ三)、「三司使の成立につい  
て」(『史林』四四ノ四)

佐竹靖彦

六月七日 於 東洋史研究室  
十七世紀後半の北インドの収税官  
と農民層

近藤 治

清朝訓練制度の一考察  
六月二十一日 於 東洋史研究室  
五代荆南国史考

藤田敬一

清朝と西南諸省の少数民族  
改土歸流をめぐって

衣川 強  
西里喜行

中国中世史研究会

四月九日 於 葉友会館  
後漢の豪族について

狩野直禎

六月九日 於 名古屋大学  
道教集団について

川勝義雄

西洋史読書会例会 於 京大西洋史研究室  
六月八日  
近世英国国民経済の転機

越智武臣

六月十五日

プロイセン憲法紛争と國民自由党  
の成立  
六月二十九日  
望田幸男

歴史における構造の問題  
七月十三日  
岡部健彦

ドイツ宗教改革と修道院財産の没収  
中村賢二郎

人文地理学会 第五十一回例会  
五月四日(土)

於 天理大学

ボリネシア調査概報

奈良盆地の農村構造

第五十二回例会  
六月十五日(土)

於 膳所高等学校

びわ湖の水資源開発について

中南米における日本人の企業について

北川啓一

日本地理学会 一九六三年度春季大会  
四月六・七日  
於 早稲田大学

第一日

ニューヨーク・メトロポリタン・  
リーションにおける商業機能の爆  
発現象

於 坂口良昭

Pennsylvania州 Blair County

坂口良昭

の地域構造

ソ連における集落研究の特徴と問題点

山口岳志

仙台湾岸漁村における浅海養殖業の発達

渡辺一夫

鹿儿岛県串木野のマグロ延縄漁業

斉藤毅

北海道漁業地域の地理的分

伊藤久雄

竹本光明の模写地図分類結果の考察

木村東一郎

初期の地形図類について

清水靖夫

志摩半島における地名の検討

井坂篤子

(共同発表)

〈地域開発事業が地域社会に及ぼす影響について〉

藤森勉

水島工業地帯造成と企業誘致

藤森勉

誘致企業と地元中小企業との関連

国富毅

地域開発が農業に及ぼす影響

藤森勉

地域開発が漁民に及ぼす影響

由比浜省吾

岡山市を中心とする都市計画の諸問題

河野通博

地域開発と広域都市問題

小池洋一

八重山開発からみた集落の変容

杉本尚二ほか

〈三大都市圏の地域診断〉

都市度と農業度からみた場合

服部銚二郎

郊外度と工業度からみた場合

加賀谷一郎

地域分化からみた地域区分

稲永幸雄ほか

その他、地形・気候に関する諸発表

第二日

江古田の結核療養地区の変貌

由良价孝

接収による都市景観の変容

長沢竹治

東京湾岸における土地造成

小沢利雄

関東地方の工業地域

板倉勝高ほか

関東地方における機械工業の分布

菊地一郎

大都市生活圏の構造

山鹿誠次ほか

北九州連接都市地域の多核的機能構造

伊藤達雄

本邦諸都市の機能分類に関する若干の考察

石水照雄

山村における郡界の変更

矢ヶ崎孝雄

市川健夫・青木広安

カルスト高原大野ガ原の土地利用

浜田清吉・三浦 登

高崎市西郊若田原台地の果樹園立地

須藤万治

那須扇状地における大家畜飼養の一変

井上須美子

淡路島における花卉栽培の立地

奥村和夫

水稲生産力と地力との関係

青木千枝子

湿田直まきの自然的環境

籠瀬良明

地域開発と農業構造改善

赤峰倫介

日本における土地改良区の分布

西川 治

日本農業機械化の意義

小笠原義勝

自然災害研究の方法について

服部信彦

その他地形に関する諸発表

歴史学研究会 一九六三年度大会

五月一八、一九日

於 明治大学

第一日

総合部会「東アジア歴史像の検討」

報告者 堀敏一・遠山茂樹・吉田悟郎

第二日 部会

日本における領土制の展開と構造

報告者 内田実・三木靖・坂口勉・北爪真佐夫・佐藤和彦

幕末維新期の社会構造

報告者 半田市太郎・守田嘉美・青木美智男・安孫子麟・鎌田永吉

帝国主義世界体制の構造と展開

報告者 矢沢康祐・斉藤孝

日本西洋史学会第十四回大会

五月二十五、二十六日 於 金沢大学

〈公開講演〉

現代史の面白さ

中山治一

歴史的個体としてのヨーロッパ

増田四郎

〈研究報告〉

第一日

ギリシアの英雄叙事詩の社会的基盤

藤縄謙三

カテゴリーナ陰謀事件の一考察

吉村忠典

イギリス封建制確立期の政治権力構造

佐藤伊久男

司法組織と裁判慣行よりみたヨーロッパ

松垣 裕

中世後期の貴族身分

井上泰男

近世初期の中世における農村都市について

寺尾 誠

ジャック・ケイドの反乱について

富岡 次郎

第二日

人文主義における歴史記述

永井三明

アメリカ社会における人間関係とアメリカ史の解釈

清水 博

帝国主義論における論理と心理

尾鍋輝彦

第一次大戦後におけるドイツ東方政策

H・ヘルビック

ストルイビン体制の成立

和田春樹

歴史理論としての「中ソ論争」

斉藤 孝

於 同志社大学神学部

第一日

ウイヒトレアド法典とキリスト教思想

朝倉文市

初代キリスト教における使徒トマスの位置

荒井 献

キリンタンの舞

柘 源一

専門事業としての宗教諸活動

川崎 肇

古代と中世の境界としてのグレゴリウス一世の時代

木間瀬清三

ポルトガルに於ける日本史料と学的動静

松田毅一

〈特別講演〉

きりしたん版の印刷書誌

バードレ・アンシヤンドロ・ヴァリエ

ヤードと商人イグナシオ・モレイラ

ホセ・ルイス・アルバレス・タラドリス

第二日

ダマスコのヨハネ神学方法論

松本富士男

仏教救世軍の基督教撲滅運動

峯崎康忠

アメリカの東洋における初期の医療伝道

長門谷洋治

原始キリスト教団と新興宗教の発生的類型

佐々木忠一

教会員構成に関する研究

佐藤 裕

聖書と訳と尾張漂流者

重久篤太郎

旧キリンタン宗門の性格

助野健太郎

西洋にある東方教会

田北耕也

中村敬宇における儒教とキリスト教

高橋昌郎

教育者としての石井十次と留岡幸助

武田清子

韋廉臣 (A. Williamson) の「基督実語」について

吉田 寅

高橋五郎の聖書と訳

海老沢有道

第三日 見学会 天理図書館見学会

日本研究会 春季講演会

六月十五日(土) 於立命館大学

植民地主義の歴史的特長

鈴木正四